



医療法人 聖仁会

皆様のご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます

KOBATO

広報誌『こばと』

Vol.61

2022年 冬号

INDEX

新年のごあいさつ…1・2P

第18回聖光会学会開催報告…3P

小児科・耳鼻咽喉科外来診療終了について…3P

季節のレシピ…4P



新年の挨拶

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては新年を如何お過ごしでしょうか。西部総合病院におきましては、昨年は激動の年となりました。新型コロナウイルス感染症の感染第5波において、当院でもクラスターが発生し診療が一時停止の状況となり、地域の皆様大変ご迷惑をおかけいたしました。

また、今年度末をもちまして小児科・耳鼻科を閉診することになりました。永らくご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。

近年の人口動態や疾病構造の変化を鑑み、地域の医療機関との機能分化や連携により、今春からは外来化学療法等のがん医療に取り組んでまいります。

これからも最新の医療動向に対応するとともに、地域医療の担い手として良質な医療を提供し、急性期から維持期まですべての病期に対応できる当院の特徴を生かし新たなステージへと進んでいきます。

皆様にとって今年一年がより良き年となりますようにご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

医療法人聖仁会 西部総合病院・西部在宅ケアセンター・西部総合病院健診センター
理事長 西村 直久



【院是】

病める人に対し良き奉仕者たれ

【基本理念】

倫理心・生命尊厳を重んじ「全人的な医療」を提供する
誠心誠意医療・介護を實踐し「安心と満足」を提供する
地域の皆様と共存・発展し「喜びと幸せ」を共有する



ご挨拶

2022年新年にあたり

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、さぞかし新鮮な気持ちでお正月を迎えられたことかと思われます。

さて、今年の干支は寅です。虎の様に物事を冷静に“虎視眈々”と見つめ、たとえ苦難に遭遇しても勇気を出し大いに“力強く吠えて”乗り切っていきましょう。尚、今年もコロナ禍が持続しそうであり、コロナウイルス第6波の到来も危惧され、その終息もしばらくは予想が立たない状況です。当院としては皆様の安心、安全を担保すべく、引き続きスタッフ一同、万全な院内感染防止対策を講じていく所存ですので、どうぞご安心ください。

一年の計は元旦にあります。当院の今年の3本の矢（イヌノミクス?）として、私なりに以下の目標を掲げました。**1) 地域医療への貢献、2) 良質な医療提供、3) 患者様への温かい“おもてなし”**の3点です。1) は地域密着型医療が当院のモットーであるからです。2) は日進月歩、進展を遂げている新しい医療を積極的に取り入れます。3) の“おもてなし”は以前の東京オリンピック招致活動の際に滝川クリステル氏の文言で話題を呼びましたが、将にこの精神は医療の原点でもあり、日常心掛けております。私として以上の3点が少しでも達成される様、邁進していきたいと考えています。

今年も皆様にとり、明るく、充実した年になることを心より願っております。

医療法人聖仁会 西部総合病院
院長 犬飼 敏彦

明けましておめでとうございます

今年は「壬寅」家族を大切に他人にも心を開く年、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ華々しく生まれる年だそうです。一昨年来、新型コロナウイルス感染の影響で「できないこと」が多い年でしたが、今年は「できること」が多い年となることでしょう。看護部は積極的によりよい看護介護の実践にむけて行動を開始しましょう。

お正月が来ると思いたす話があります。「看護師さんは年越しもお正月もないんだね。寂しい年末年始だったよ」と看護師1年目の私が年末年始の勤務を終えて帰省した時、母に言われた言葉です。時代は令和になっても病院、看護・介護職員は24時間365日の交代勤務は避けられない現実です。今年も年末年始勤務して頂いた職員の皆さんに感謝申し上げます。そしてそれを支えてくれるご家族様にも心から感謝申し上げます。

医療法人聖仁会 西部総合病院
看護部長 長谷川 啓子



第18回 聖光会学会 が開催されました!

当初10月30日に開催予定でしたが、新型コロナの感染状況を考慮してWEBでの配信にて開催されました。

当院でも配信用の動画撮影を2日間にわたり行い、日常業務での気づきや問題の改善点の提言など様々な視点から下記の演題を発表いたしました。



医局 (医師)

コロナ禍における当院院内感染対策委員会の近況活動報告	犬飼 敏彦
退院後も切れ目のない質の高い医療を継続するために包括的な支援	野中 由紀子
当院におけるオンライン診療の導入と今後の展望	蓮見 智昭
健診センターから診療科への橋渡し ～西部二次健診のご紹介～	富岡 尚子

看護部

排尿自立支援に向けた体制の構築 ～準備期間から排尿ケアチームの活動開始の経過～	長谷川 啓子
DNARとは何か 看護師の認識と現状をアンケート調査から読み解く ～アンケート調査に基づく業務改善への取り組み～	佐久間 由紀子
退院支援における「看看連携」の必要性	曾木 早苗
在宅介護でのQOL向上した事例に関する研究 ～入院生活と在宅生活を比較して～	甲田 和枝
患者家族への電話を利用した定期報告について ～面会制限中の在宅退院を目指して～	長友 文香
気管切開部のスキンケアについて ～保護剤を工夫して～	桑山 晶帆
発熱外来受診時の看護師による効果的な患者指導 ～パンフレットを活用し統一した指導を目指して～	土屋 菜央子
チーム医療で支える当院の取り組み ～医療療養病棟における職員への意識調査～	荷川取 蓮
マニュアルの作成を試みて ～誰もが同じクオリティを保つために～	沖野 加代子

薬剤科

高齢者のインスリン導入のポイント ～当院の現状調査と今後の展望について～	青木 奈穂子
--------------------------------------	--------

リハビリテーション部

地域包括ケア病棟における自宅復帰困難者の検討	鈴木 雅也
TKA術後患者における膝関節自動屈曲可動域の早期拡大を目指した一症例	堀江 晃平
自主トレーニングの継続について ～具体的方法の検討～	大山 健吾
アンケート調査に基づく業務改善への取り組み ～当院訪問リハビリテーションにおけるリハビリ会議・広報誌の実施調査～	近森 貴裕



小児科・耳鼻咽喉科外来診療終了について



開院以来地域の皆様には大変お世話になってまいりましたが、諸般の事情により**2022年3月末日**を持ちまして**小児科並びに耳鼻咽喉科を閉診**することにいたしました。

昨年より新型コロナウイルス感染症の影響により患者様の受診状況や病院の役割も大きく変わってきております。当院においても時代の変化に合わせて、地域の役割に見合った体制にすることが求められており、苦汁の決断となりますが、2022年3月末日を持ちまして小児科・耳鼻咽喉科外来診療を終了することにいたしました。永年にわたり格別なご高配を賜り深く感謝致します。

今後は新興再興感染症への対策強化やがん患者様等への化学療法室の設置など、今まで以上に地域ニーズに沿った医療を実践してまいります。

何卒当院の事情をご賢察の上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

医療法人聖仁会 西部総合病院 院長 犬飼敏彦

季節のレシビ

西部総合病院
栄養科

大豆ミートのから揚げ

【調理時間】30分 【栄養量(1人分)】カロリーー 191kcal



○材料(3人分)

- 大豆ミート(乾燥・ブロックタイプ)…70g
- A
 - 醤油……………大1
 - 酒……………大1
 - 生姜……………1かけ(すりおろす)
 - にんにく…1かけ(すりおろす)
- 片栗粉…適宜(又は小麦粉)
- 揚げ油…適宜

○作り方

- 大豆ミートを水かお湯で戻します。(戻し方は商品の袋に記載されています)
- しっかり水を絞り(戻す前の3~4倍位の重さになります)、ビニール袋に入れます。
- Aを混ぜておきます。
- ②にAを入れ、味が均一になじむよう混ぜ、大豆ミートに調味料を吸わせませす。
- 片栗粉をまぶして、180℃の油できつね色になるまで揚げて完成です。

！ひとくちメモ 大豆ミートとは？

- 大豆ミートは、油を搾った後の大豆に熱や圧力を加えて加工したもので、近年食肉の生産に比べ環境にやさしい蛋白源として注目されています。
- 大豆ミートには乾燥タイプ、チルドタイプ、冷凍タイプ等があります。今回は乾燥タイプを使用しましたが、お湯で戻せばすぐに戻り、スポンジ状で調味料もあっという間に染み込むので、普通のから揚げより短時間で調理できました。味や食感も鶏肉のから揚げに近く、冷めても硬くなりにくいので、子どもや咀嚼力が低下した高齢者まで幅広く食べられます。

！ひとくちメモ 大豆の栄養

肉に比べ低脂肪、低カロリーであり、蛋白質は肉と同レベルの質と量を含みます。また、大豆の蛋白質はコレステロール低下作用があると言われており、大豆イソフラボンは女性ホルモン様の働きで骨粗鬆症の予防や、コレステロール代謝を改善すると言われています。肉や魚に並ぶ食材として、食卓に取り入れてみてはいかがでしょうか？

100gあたりの栄養量	カロリーー(kcal)	たんぱく質(g)	炭水化物(g)	脂質(g)	コレステロール(mg)	食物繊維(g)
大豆ミート	120	15.4	12.2	1	0	5.9
鶏もも肉	200	16.2	0	14	98	0

※大豆ミートは湯戻し後絞った状態で100gとして計算(乾燥の3倍)

参考: 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 ホームページ

